

The Interview

山本容子さん

大学在学中、大判の紙に日常的な小物を大胆に描くという、斬新な銅版画を発表し一躍注目を浴びた版画家の山本容子さん。以来、斬新な構図と印象的な色使いで独自の世界を確立し、多くの人々を魅了してきました。「人生は自分のためにある」という山本さんに、自分らしく生きるヒントについてうかがいました。

好きな分野で自分らしさを発揮できる(山本)
幸せなことはありません。

子どもの頃、どんなお子さんでしたか。個性や価値観を育む過程で、家族から受けた影響があればお聞かせください。
かなりのいたずらっ子でした。商売をしていた関係で、両親や妹、祖父祖母のほかに乳母や使用人のいる大家族で育ったのですが、そこから物の見方や考えは一つではないということ学びました。
たとえば同じようなことを学ばしても、母は怒るけど祖母は笑って許してくれる。あるいは同じ質問をしても、父はいいと言いつつ祖父母はだめと言う。こうした多様な価値観のなかで育てられた経験が、私の原点になっていると思います。

私の作品に子どもやお年寄りまで様々な人が見て楽しめるような視点を書き入れているのも、そんな経験がもたらしているからです。
自身の経験から、自分の個性を發揮して生きるには、どんなことが大切だとお考えですか。

小学校の写生の時間に、緑色のキリンを描いたことがあるんです。私が「キリンは草を食べていたから」と説明すると、先生は「なるほどね」と言ってくれました。もちろん、写真という点ではキリンは黄色ですが、詩情的な面から見たら何色に描いてもいいわけです。あ



社会の既成概念にとらわれることなく自分の気持ちに正直に生きていきたい

私らしく
生きるための
メッセージ

る線に魅せられたからです。

当時、伝統的な銅版画であえて日常的な題材を描いたのは、作戦的な意味合いもありました。時代を揺さぶるような新しさがなく、センセーショナルなデビュー

ーは果たせないと考えたからです。しかし、美術家として生きていくのは、大抵のことではなかったと思います。特に乗り越えなければならなかった壁や心がけてきたことがあればお聞かせください。
周囲は絵で食べていくなど不可能とされている人がほとんどでした。まして女性は家庭を守るべきという社会通念から、女だてらにそんな道を目指すのは好ましくないとする風潮もありました。

でも私はそんな社会の既成概念に揺らぐことなく、素直に美術家として自分を生きていくことが大事だと思っていました。それに私は純粋に自分の作品が売れてお金を得るのが芸術家だと思っていたので、「絵のために仕方なく就職をする」というような言い訳的な生き方はしたくありませんでした。とはいえ、現実には38歳くらいまでは貧しかったですね。日本では自分を高めるために絵を買うという人はまだまだ少ないんですね。毎年個展を開

いても、ギャラリーに足を運んでももらえる人数は知れているんです。

そこで、私が選んだのは「本」というメディアでした。本屋さんをギャラリーと考えれば、はるかに多くの人に私の絵を見てもらえるという発想の転換です。表紙などを手掛けたら、本にかかわる仕事を意識的にするようになってから、仕事の範囲が広がりました。以来、受け手にどうやって発信したら、私が面白いと思っている世界を受け取っていただけるかを考えながら活動を展開しています。性別にかかわらず、誰もが自分らしく生きられる社会にしていきたいために、私たちの意識をどう変えていったらよいとお考えでしょう。

やはり男女の関係を変えていくことにつきます。男は女を尊敬し、女も男を尊敬し、お互いをパートナーとして認めあえる関係が築けないかぎり、誰もが自分らしく生きられる社会になっていかなければなりません。

それと、もっと自分を大事にすることではないでしょうか。自分の人生は自分のためにあるのですから。男は仕事があ

様々な視点から楽しめるような作品を描いています。



プロフィール◆さいたま市生まれ。銅版画家。78年、京都市立芸術大学西洋画専攻科修了。抜群の構図力と印象的な色使いで独自の銅版画の世界を確立。第2回日本現代版画大賞展西武賞、第4回韓国国際版画ビエンナーレ優秀賞ほか多数受賞。版画にとどまらず、装丁や挿画、絵本やエッセイの執筆など幅広い創作活動を展開している。

※山本容子さんの創作の世界の全容を紹介する展覧会「山本容子の美術遊園地」が2月22日(土)~3月30日(日)まで、うらわ美術館(827-3215)で開催されます。

山本さんのお話をうかがって

通信員◆大間栄美さん



自分と違う価値観を素直に受け止めたい

今日に至るまでにはお話し以上のご苦労があったであろう山本さん。でもその姿はごく自然体で、ぜんぜん気負ったところがないのです。「人にはいろいろな考え方があって、それが当たり前。自分は自分の信じる道をいけばいいでしょう」という言葉の中に本当の「自分らしさ」を見た気がしました。

自分と違う価値観を素直に受け止めるのはなかなかむずかしいこと。でもこれができるのとくく狭い視野でしか物事をとらえられない、つまらない人間になってしまいませんよ。男女平等のルールにも言えますけど、まず互いを認めあい、尊重できる社会こそが、「自分らしさ」を發揮できる平等な社会だと思っています。

※通信員：公募により「You & Me~夢~」の編集に関わっている市民です。